【様式１】
【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

	都道府県名	富山県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	高岡市立西条小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	２	１４	
児童数	５３	７９	６７	６７	６６	６６	８	４０６	１９

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

基礎学力を身に付け、学び合う子供の育成

２　研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・　全学年・算数科
（児童の理解の程度に差が出やすい教科であるため）

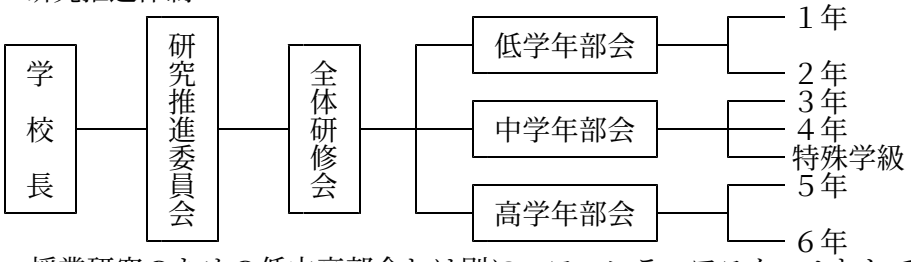
・　全学年・ 読み･書き･計算
（基礎学力の中でも、確実な定着が求められる力であるため）

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ　　基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を高める
	○　研究の見通し (1)　主体的に追究していくための教材や単元構想を工夫することによって、基礎学力の定着を図ることができる。 (2)　自分のよさを発揮し、互いのよさを認め合う学習過程を工夫することによって、意欲を高めることができる。
	○　研究の内容・方法 (1) 指導方法と指導体制の工夫 ・　算数科の基礎・基本の定着を図るための指導法の工夫 ・　ティーム・ティーチングや少人数授業の指導体制の工夫 ・　授業を支える学習体制の充実 (2) 教材開発 ・　個に応じた補充学習と発展学習のための学習プリントの作成 ・　朝活動でのスキル学習の教材や実施方法の工夫 (3) 学力の評価を生かした指導の改善 ・　自己評価を踏まえたコース選択のための診断テスト ・　スキル学習の定着度を図る評価の累積

平成16年度	○　テーマ　　基礎・基本の定着を図り、確かな学びを育てる
	○　研究の見通し (1)　主体的に追究していくための教材や単元構想を工夫することによって、基礎学力の定着を図ることができる。 (2)　自分のよさを発揮し、互いのよさを認め合う学習過程を工夫することによって、意欲を高めることができる。
	○　研究の内容・方法 (1) 指導方法と指導体制の工夫 ・　算数科の基礎・基本の定着を図るための指導法の工夫 ・　学習のねらいや内容に応じた学習形態の工夫 ・　小中学校の連携の推進 (2) 教材開発 ・　一人一人の実態に応じた補充・発展教材の作成 ・　定着度を高める教材の工夫 (3) 学力の評価を生かした指導の改善 ・　個に応じた指導に生かすための評価の在り方 ・　継続的に定着度をはかる評価の工夫

(3)　研究推進体制



授業研究のための低中高部会とは別に、フロンティアスクールとしての研究を推進していくために、教材分析・少人数指導・教材開発という３つの部会を設けた。教材分析部会では、発展･補充プリントや診断テストの作成を行った。少人数指導部会では、指導形態の年間計画やコース診断テストの作成を行った。教材開発部会では、基礎学力の内容の設定をし、学校での取り組みを家庭に紹介した。

【様式１】

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１　研究の成果

(1) 指導方法・指導体制の工夫

学習内容に応じて一斉指導や少人数による個に応じた学習を行い、基礎・基本の定着を図るようにした。

①　T・Tによる一斉指導　（４・５・６年）

授業を中心となって進めるＴ１や補助的な発問や個別指導を中心とするＴ２の役割を明確にし、一人一人の学習を支えるように行ってきた。教師が２人いることにより、自分の分からないことをすぐにその場で教えてもらうことができ、不明な点を次時に持ち越すことが少なくなった。

かかわり合う場では、できるだけ自分の解決方法や考えを友達と交換する場を設定するようにした。子供たちは、自分の考えを友達に認めてもらう喜びや友達の考えを理解できる喜びを味わいながら学習に取り組むことができた。些細な自分の疑問をすぐに解決できるという安心感をもって、楽しく学習を進めることができた。

②　少人数指導（４・５・６年）

学習内容の定着度や子供の願いに合わせて、習熟度別グループや均質グループの少人数指導を行った。

○　均質グループによる指導

きめ細かな学習の成立を図るため、名簿順や座席順などによる均質な集団に分け、少人数指導を行った。２人の指導者は互いに単元を通した学習の進め方を共通理解するとともに、毎時間子供たちの実態について話し合った。そうすることにより、子供たちの学び方の様子や次時の手だてなどについてより効果的な指導を探ることができた。また、子供たちにとっては小集団なので気楽に発言ができ、互いの考えを聞き合ったり、深め合ったりすることができるようになった。

○　習熟度別グループによる指導

学級や学年を習熟度別に分けて行う。コース分けは自己診断テストの結果から希望のコースを選択し、教師のアドバイスを受けて決定する。一人一人の理解に応じた支援を行うことができ、どの子供も分かる喜びを味わうことができた。

＜４年生の実践から-----学級を習熟度別２コースにわける。------小数＞

	「パワーアップコース」	「チャレンジコース」
ねらい	・　補充問題に取り組み、基礎・基本の定着を図る。	・　発展的な問題を含めたいろいろな問題に挑戦する。
成果	・　一人一人のつまずきの原因をとらえ、学習の状況に応じた指導を心がけたことにより、どの子にもできた喜びを味わわせることができた。	・　自らの興味や関心に応じた問題に取り組んだり、適度の困難さがある問題を解決したりすることで、子供たちは、充実感を味わうことができた。

＜６年生の実践から-----学年を習熟度別３コースにわける。-----分数のかけ算とわり算＞

	「ホップコース」	「ステップコース」	「ジャンプコース」
ねらい	・　教師の支援のもとで基本的・基礎的な事項を確実に身に付ける。	・　教師の支援と友達とのかかわりを通して進めていく。	・　自分の力で問題解決への見通しをもち色々な問題に挑戦する。
成果	・　分かりやすく教えてもらえることやのびのびと質問できることが嬉しかった。	・　自分の力で確実に問題を解いていけることが嬉しく、自信につながった。	・　発展問題に挑戦し、友達とかかわりながら解決していくのが楽しかった。

③　学習を振り返るための算数ノート

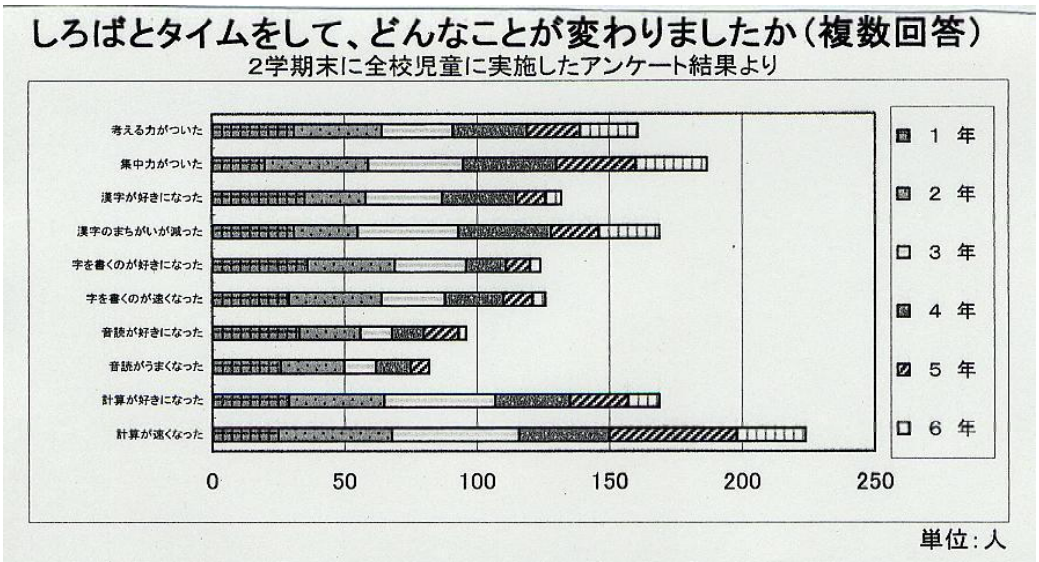
自分が問題をどのように解決したのかを、言葉や図などを使って書くよう、ノートの書き方を毎時間指導してきた。また、授業の終末には「算数日記」に学習後の感想を書き、毎時間自分の学習を振り返ることにした。子供たちは、書くことによって自分の考えを見直し、友達の考え方のよさに気づいたり、自分の考えをさらに深めたりすることができた。また、教師にとっても、一人一人の考えや理解の様子が分かり、個に応じた支援をすることができ、次の指導に生かすことができた。

【様式１】

(2)　全校で取り組んだ「しろばとタイム」（朝活動）

一人一人の基礎学力の定着を目指して、毎朝、全校一斉に　「読み・書き・計算」のスキル学習を中心とした活動を継続して行った。各学年の年間指導計画にそって、学習プリントを作成し、学期末に漢字大会や計算大会を行い、定着の度合いを評価した。

時間	月	火	水	木	金
8:30 ～ 8:40	計算	読み 書き	計算	読み 書き	計算



多くの子供たちが自分の変容を実感していることが、上のグラフからもうかがえる。また、友達と速さや正確さを競うのではなく、前の自分と比べてどれだけ伸びたかが大切であるという意識をもたせたことで、より意欲的に取り組んだと考える。

一方で、学年が上がるにつれて教材が難しくなり、自己評価も厳しくなるため、自分の力の伸びをなかなか実感できないこともわかってきた。一人一人が意欲を持続させながら取り組むことができる教材や評価の工夫が求められる。

2　今後の課題

・　互いの発表を聞き合うことで、自分の考えを見直し、発展させ、相互に高め合うことができる力の充実を目指したい。
・　個々の児童の指導記録を工夫するなど、評価方法を改善することで、より効果的な少人数指導の在り方を探っていきたい。
・　しろばとタイムでは、子供の実態に応じた教材を各々の学年で作成し、実施してきたが、来年度に向けて、学年間の系統立てた教材の開発を進めていきたい。また、子供自身が自分の伸びを実感できる評価方法を工夫することで、一人一人の主体的な学びを育んでいきたいと考える。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取り組み

・　県小学校教育課程研究会作成の「学力調査」（４月）
・　県小学校教育課程研究会作成の「学期のまとめ」（毎学期末）
・　教研式標準学力調査ＣＲＴ（２月）
・　県教育委員会作成の「漢字・計算にチャレンジ」（12 月・２月）
・　市教育委員会作成「言葉のきまり」「計算力」の定着度調査（２月）
・　本校作成の「計算力診断テスト」（３月）
・　本校作成の「漢字・計算大会」（毎学期末）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1)　近隣の小・中学校に対して
　７月　１日(火)　学校訪問研修会への参加呼びかけ
　８月 19 日(火)　小中合同訪問研修会
　11 月 25 日(火)　公開授業研修会（５年「分数をくわしく調べよう」）
　１月 23 日(金)　学力向上フロンティアスクール初年度研究会
　【講師　上越教育大学助教授　布川和彦先生】

(2)　保護者に対して
・　フロンティアスクールとしての取り組みの紹介（ＰＴＡ広報紙・学校便り・学年便り・学級懇談会）
・　算数科の一斉指導・少人数指導・ＴＴ指導の授業全学級公開（学習参観）

(3)　市内の小・中学校に対して
・　研究紀要「実践のあゆみ」の配布
・　ホームページへの掲載（予定）

【様式１】

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　○１５年度からの新規校　１４年度からの継続校

【学校規模】　６学級以下　７～１２学級
○１３～１８学級　１９～２４学級
２５学級以上

【指導体制】　○少人数指導　○Ｔ．Ｔによる指導
一部教科担任制　その他

【研究教科】　○国語　社会　○算数　理科
生活　音楽　図画工作　家庭
体育　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　○有　無